

(様式1)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 6	学校名	宇都宮市立石井小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤として、豊かな心と健やかな体をもち、自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる、たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

【教育目標（目指す児童像）】	【合言葉】	【具体目標】
健康で 根気強い子	きたえる	体力・気力の増進
進んで学び よく考える子	考える	確かな学力の定着
心豊かで 思いやりのある子	助け合う	豊かな心の育成

2 学校経営の理念

テーマ「豊かな心、楽しい学校、地域で育つ子どもたち」

全職員が、相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。

この教育活動を展開するために、「目指す学校像」、「目指す教職員像」を設定し学校経営を推進する。

<目指す学校像>

- い・・・居がいのある学校：一人一人のよさや個性が発揮でき、互いに尊重し合う学校
- し・・・信頼される学校：保護者や地域とともに歩み、心を合わせて児童を育成する学校
- い・・・生き生きとした学校：学ぶ楽しさを味わい、一人一人が明るく生き生きと活動している学校

<目指す教職員像>（勤めたくなる学校）

- い・・・居がいのいい：働きがいを見つけ、チーム学校の一員として協働を大切にする教職員
- し・・・信頼：自己研鑽に努め、自覚と誇りをもった責任感のある教職員
- い・・・生き生き：自らの健康や家族を大切に、働き方を考えゆとりをもって子供と向き合う教職員

3 学校経営の方針

(1) 豊かな心の育成

人間尊重の精神を基盤とし、児童一人一人のもつ「個性」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、自信や自己有用感、規範意識、思いやりの心の育成に努め、自尊感情を高める。

(2) 学習指導の充実

「宇都宮モデル」を生かした「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を積極的にを行い、一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の習得とそれらを活用する力を育成するとともに、目標に向かって自ら学ぶ意欲を育む。

また、学力調査を有効に活用するとともに、児童生徒の発達の段階を考慮しながら、「宇都宮学」、SDGs、人権、選挙権年齢の引き下げ等に係る現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教科横断的な視点に立って育成を図る。

(3) 健康・体力の保持増進

自分の心と体に向き合い、気力や体力を育む教育活動の充実に努め、生涯に渡って心身ともに健康で安全に生活できる資質や能力の育成に努める。

コロナ禍による運動機会の減少により、児童の体力が低下している現状を把握した上で、運動量の確保やICTの有効活用などにより授業の充実に努める。

学校給食を生きた教材として活用しながら、給食の時間や各教科等での食に関する授業において、食事の重要性や栄養バランス、食事マナーなどについて指導するとともに、児童自らが食生活を振り返り、より良いあり方を考え、その実践が日常生活においても継続できるよう、家庭との連携を図る。

また、学校給食においては、地場産物を積極的に使用するほか、郷土料理や行事食を取り入れることにより、児童生徒が地域の自然、文化、産業等に関する理解を深め、食に対する感謝の念を育成できるよう努める。

(4) 教職員の資質の向上

教育公務員としての自覚をもち、サービスを遵守するとともに、進んで自己研鑽に励み、自らの資質を高め、さらに、協働の精神を大切に、教職員・児童へ還元できるよう努める。

(5) 地域と共に歩み、信頼された学校づくり

地域の教育資源や資料を活用し、郷土への愛情と誇りを育む学習の充実に努め、家庭・地域社会との連携を密にし、地域の教育力を生かした信頼と協力を基盤とする「地域とともにある学校づくり」に努める。

(6) 小中一貫教育の推進

陽東地区内の小中学校が連携し、義務教育9年間を総合的にとらえ、児童生徒の心豊かでたくましく生きる力の育成を目指した教育活動の推進に努める。

(7) 学校の働き方改革の推進

教職員一人一人が、勤務時間を意識した働き方と業務改善の推進に努める。また、地域の教育資源の有効活用を図り、教職員が児童と向き合う時間の確保につなげる。

「陽東地域学校園教育ビジョン」

テーマ「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程の編成方針

基本方針

- (1) 新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえるとともに、小中一貫教育を生かした教育課程の編成を行うため、年間指導計画を見直し、適切な指導内容を決定する。
- (2) 令和4年度学校評価の結果や学校経営方針も踏まえ、各教科、特別の教科道徳、外国語科、総合的な学習の時間、特別活動の相互の関連を図り、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指した編成を行う。
- (3) 小中一貫教育の実施にあたり地域の教育力を十分に活用しながら、9年間を見通した系統的な指導を行い、より一層の学力向上と十分な学校生活適応を図る。

留意点

- (1) 〇〇週間や学校行事をバランスよく配置することにより、1年を通し、学校生活が児童にとって、豊かで潤いのある学びの場となるように工夫する。また、社会や地域の様々な状況に応じ、取り組みの内容を工夫・改善・創造する。
- (2) 魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を推進するとともに、地域協議会や学校マネジメントシステムによる学校経営方針の説明及び地域・保護者からの意見聴取を通して、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（1）学校運営

- ・ 「豊かな心、楽しい学校、地域で育つ子どもたち」を目指し、地区内小中学校、保護者、地域関係者、宇都宮大学、団体・企業などと連携・協力し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。
- 児童が自己の個性や能力をいかんなく発揮し、互いに認め、協力し合って伸長できる学校づくりを推進する。
- ・ 学校の組織力強化のため、協働体制・支援体制の充実と信頼関係に基づいた職場環境づくりを推進する。同僚や主任、管理者への報告・連絡・相談により、組織的に対応する。

（2）学習指導

- 「自分の考えを伝え、深め合う児童の育成」

（3）児童指導

- 「豊かな心をもち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成」

（4）健康（体力・保健・食・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）

- 自らの健康や体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成
～基礎体力の向上を目指した教科体育の充実～
～保健指導及び食育との関連を踏まえた保健学習や学級活動の充実～

（5）学校における働き方改革

- ・ 学校体制として「新しい取組」、「廃棄する取組」、「簡素化する取組」を仕分けして実行すること、また勤務時間を意識した働き方の推進や地域の教育資源の有効活用を通して、教職員が児童と向き合う時間をより多く確保する。

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

郷土愛、自他を思いやる心、自主的・自立的な態度の育成を目指す。

（2）具体的取組（「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

① 実感体験学習

学年の発達段階に応じて、自然体験や社会体験、ボランティアなど様々な体験活動を展開し、子どもたちの知的好奇心や探究心を育成する。

<主な具体的取組>

◇農業体験学習（米作り、さつまいも作り） ・ 自然体験学習

② 心交流学習

学校内の児童や地域の保育園児、大人、敬老者など、様々な世代の人との交流を通して、思いやる心や感謝の心など豊かな心を育成する。

<主な具体的取組>

・ 異学年交流「みんなで遊ぼう集会」 ・ 縦割り班活動「にこにこタイム」

・ 石井っ子祭り ◇保育園訪問 ・ 地域ふれあい給食

③ 地域郷土学習

地域の見識者や宇都宮大学の職員・学生など、地域のボランティアから学んだり、地域の施設や自然を活用し郷土について学習したりして、学びを深める。

<主な具体的取組>

・ 石井地区ペタンク協会と連携した体験活動

・ 石井地域公共交通を知る学習

◇地域の歴史、福祉、自治会組織などについての講話

◇学生ボランティア支援学習 ・ ボランティアによる読み聞かせ

- ・地域の自然と遊ぼう ◇地域のお年寄りとの昔遊び

④ 未来夢学習

人との触れ合いから、働くことの大切さや命の尊さを感じ取り、夢を抱かせ、将来への希望を高め、実現に向けての意識と態度を育成する。

＜主な具体的取組＞

- ・町探検 ・買い物体験 ・工場、施設見学 ・薬物乱用防止教室
- ・命の授業 ◇職業人の講話

8 本市の重点施策・事業との関連

（１） 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

① 基本的考え

学校や保護者、育成会等と自治会（２０自治会）をはじめとする地域の団体、企業が一体となつて、学校教育の充実と家庭・地域の教育力向上に向け連携を強化し、児童を育成する。

② 主な取組

○ 積極的な情報発信

- ・各種たより、ホームページ、学校公開、保護者会等による保護者、地域への積極的な情報提供
- ・地域協議会や学校マネジメントシステムによる経営方針の説明と地域や保護者からの意見聴取

○ 家庭、地域との連携・協力の推進

- ・家庭、地域、企業と連携した指導の推進
- ・校外学習や交流活動、外部講師を招いた学習の実施
- ・ボランティア室の利用による教育ボランティアの有効活用
- ・祭りやイベントなど地域や保護者と連携した行事の開催と積極的な参加

○ 特色ある教育活動の推進

- ・地域と連携し、地域の教育力を生かした活動の推進
（実感体験学習、心交流学習、地域郷土学習、未来夢学習）

（２） 小中一貫教育・地域学校園

① 基本的考え

陽東地区内の小中学校が連携し、実態から得た「育てたい力」や「目指す１５歳像」「指導の重点」を基に、指導構想を明確にし、義務教育９年間を総合的にとらえ、児童生徒の心豊かでたくましく生きる力の育成を目指した教育活動を推進する。

② 主な取組

○ 地域学校園の連携協力体制の充実

- ・テーマ「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」に基づいた各種活動の実践
- ・キャリア教育を核とした活動の推進
- ・各部会（「学力向上部会」「健康・体力・食育部会」「学校生活部会」）の中での問題点や改善策の共通理解
- ・陽東学校園ナビを活用し９年間を見通した家庭、地域、学校が連携した教育の推進
- ・児童生徒に関する積極的な情報交換

○ 地域学校園の合同活動・交流活動の推進

- ・地域学校園合同のあいさつ運動や特別支援学級交流会，中学校見学会の計画的実施
- ・小中交流授業の継続実施
- ・教育活動や地域行事における児童生徒の交流の場の充実
- ・地域交流を積極的に図り，夢を育む授業の実践

（３）不登校対策

① 基本的考え

- 学級担任だけの問題とせず，学校全体の取組として，不登校の予防及び未然防止，そして発生後の丁寧な対応に努め，不登校ゼロを目指す。

② 主な取組

- 児童を温かい雰囲気を受け入れ，普段からの信頼関係を構築するとともに，児童同士がかかわり合いをもつ中で自己の存在意義を実感することができるよう学級経営の充実を図る。
- 入学前や前年度までの情報を全教職員で共有し，不登校の兆しを見逃さないようにするとともに，保護者と連携を図りながら，初期対応を確実に行う。また，年度が切り替わる際に年間を通しての対応や有効な手だて等を振り返り，次年度への引継がスムーズに行われるように配慮する。
- 別室登校支援や１人１台端末を積極的に活用した連絡・学習支援を行うなど，個に応じた多様で適切な教育機会の確保に努める。

（４）GIGA スクール構想

① 基本的考え

G I G Aスクール構想の実現を目指し，協働学習ツール等の積極的な活用により，教科の学びを深めることができるよう指導するとともに，授業外においても１人１台端末を有効に活用するなど，取組を着実に推進する。また，「情報モラル教育年間指導計画」に基づき，ネットトラブルや，ネット依存等の防止を含むデジタル・シティズンシップ（※情報技術の利用において，自ら正しく判断し，責任をもって行動する力）を育成し，より良い情報の使い手となるための教育を体系的・継続的に行う。

② 主な取組

- 児童の情報活用能力の育成
- 情報モラル，デジタル・シティズンシップ教育の充実
- 教職員の ICT 活用指導力の向上

（５）宇都宮学

① 基本的考え

「宇都宮学」の学習や「道徳科地域教材」を用いた授業を通して，地域の教育資源や資料等を活用し，伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動や，郷土の歴史，文化，伝統，産業，風土等について理解する学習を行うなどして，児童が郷土への愛情と誇りをもてるようにする指導の充実を図る。

② 主な取組

- 教育課程，校務分掌への位置づけ
- 地域の教育力を生かした取り組みや体験学習の開発

- 宇都宮学の意義，概要，目的の共通理解を図り，教育課程に位置付けられた取り組みの実践化と事例収集により持続化の土台を築く。

（６）英語教育・国際理解教育の充実

児童が英語を使って自分の気持ちや考え等を適切に伝えることができるよう，教員自身が積極的に英語を使おうとするとともに，英語によるやり取りを中心とした授業づくりに努める。

また，英語のネイティブスピーカーであるALTを授業はもとより，休み時間や放課後等の時間も活用し，児童が生きた英語やその背景にある文化に触れる機会の充実を図るとともに，異文化を理解し尊重する姿勢を育む。